



# 環境リスクPress

2023年1月発行 / VOL.40

## アスベスト関連ニュース

### 横浜市)市内小学校の体育館改修工事でアスベスト漏えい(2022/10)

山王台小学校における体育館改修工事(施工者:岡山建設株式会社)において、アスベストを含有する屋根材の撤去中に工事エリア内でアスベスト濃度測定を行ったところ、漏えい監視の目安値(1f/l)を超えるアスベスト繊維が検出された。体育館の屋根材はスレート波板(セメントに繊維素材を混入した波板)で、アスベストを含有していても切断・削孔などの作業を伴わない通常の使用環境下では特別な管理を必要としない建材とされているため、中断により一部残っている屋根材から直ちにアスベストが漏えいすることは無いと発表されている。10月29日から、電動工具の使用はせず、手工具のみで波形スレートのボルトを切断し手作業で取り外し、湿潤剤も使用、測定も箇所を増やして毎日実施等石綿の飛散防止対策は当初より強化し、工事を再開している。

## 環境リスク関連ニュース

### 排水基準を定める省令の一部を改正する省令の一部を改正する省令(2022/7)

排水基準を定める省令の一部を改正する省令の一部を改正する省令」を令和4年7月1日から施行された。本省令は、水質汚濁防止法におけるほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物並びにアンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物に係る暫定排水基準について、現行の暫定措置が令和4年6月30日(木)をもって適用期限を迎えることから、期限後に適用される排水基準について定めるものである。現行の暫定排水基準が適用されている11業種のうち10業種について、一部の基準値を強化しつつ暫定排水基準の適用期間を延長することとなった。延長後の適用期間は、旅館業及び下水道業については当分の間、その他の8業種については令和7年6月30日までとなった(他1業種(酸化コバルト製造業)は一般排水基準へ移行)。

## 環境リスク関連ニュース

### 兵庫県)加古川の建設業者が、がれきを町有地に放置(2022/10)

兵庫県上郡町議会は、同町赤松の町有地の採石場跡地(4400㎡)で、解体工事で出る建設廃材の仮置き目的での賃貸契約(70万/年で2年)をしていた加古川市の建設業者が契約期限後も野積みしたままの産業廃棄物(約3300㎡)の撤去方法を協議するため特別委員会を設置した。町は事業者に対して12月末までに撤去するよう求めており、応じない場合は法的措置を検討する。契約期限の今年1月末を迎えたところ廃棄物は搬出されず、契約を半年間延長したいという同社の申し出に町は応じた。町が新たな期限の7月末を控えて調査したところ、廃棄物が増えていることが判明した。町は不法占拠であるとして同社に対し、12月末までに撤去する誓約書と原状回復の計画書を8月に提出させた。ところが、同社の関係者2人が9月、同県加西市の山中で80トン余りのがれきを不法投棄したとして同県警加古川署などに逮捕された。同町長も、12月末までに搬出されなかった場合も想定し「損害賠償請求などの法的手段を実行できるよう撤去費用の見積もりを早急に出す」と強調。「相生警察署に告訴のための相談をしている」とも明かした。

廃材のうちスレートの破片などからはアスベストが検出されており、町は周辺の河川に有害物質が流入していないか水質検査も行う方針。

### 静岡県)清水清掃工場跡地 基準超の有害物質(2022/10)

静岡市は清水区八坂町の清水清掃工場跡地で、土壌汚染対策法の環境基準を超える特定有害物質の鉛などが検出されたと発表。安全が確認されるまで、井戸水の利用は控えるよう地元住民に注意喚起している。市は土壌への含有量を調査した結果、環境基準の約40倍に相当する鉛が検出された。土壌への溶出量調査では、ヒ素とフッ素が環境基準を超えた。健康被害は確認されていない。市は現場の下流域250mの範囲内にある住宅等320軒を対象に、井戸水調査と水質検査を行う。飲用の井戸が存在する場合は土壌汚染を除去し、存在しない場合は土地の形質変更時に届け出が必要な区域に指定する。

過去の環境リスクPressはこちらから [環境リスク.COM](https://www.kankyorisk.com) <https://www.kankyorisk.com>

【発行】 アスベックス株式会社

〒194-0023 東京都町田市旭町2-7-8

[TEL]042-726-0744 [FAX]042-726-0726